

“小さな群れよ、恐れるな。あなたの父はよろこんで神の国をくださる”（ルカ12-23）

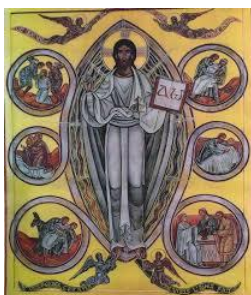
小さな群れ

カトリック美唄教会

2023年11月 No.318

2023年10月29日発行

Fr. Narciso Cavazzola ofm



11月は、教会の伝統の中で“死者の月”と呼ばれています。しかし、むしろ“終末の月”といった方がいいのかもしれない。

1日は諸聖人の祭日、2日は死者の日、どちらも教会の交わりの中で一生を終えた人々すべてが記念され、キリストとの交わりの中で彼らとともに祈りま

す。この交わりは聖体祭儀でいつも記憶されるものですが、今月は特別に彼らとの交わりの中で祈ります。

今月、教会でも墓参をしますが、皆さんもなさることをお勧めします。教会は、「死者の日は、復活の賛美豊かな交わりの時」であると言っています。墓参をしながら共に過ごした日々を思い、いつか共に生きる日々を思いながら過ごされたら良いのではないのでしょうか。

王であるキリストの主日（26日）の2週間くらい前から、神の国の終末的特徴が強くなってきます。そのため、「終末主日」とも呼ばれています。

このテーマは、待降節の前半部（12月16日まで）に持ち越されていきます。

典礼暦年の終わりを過ごす11月は、この時期にふさわしい終末的性格にあった書物が読めます。福音書も終末に関する説教は全部この時期に読めます。



12月3日からは、待降節。新しい典礼周期（B年）が始まります。

このような機会に、典礼暦年について学ぶのはいかがでしょうか。（参考：Laudate）

2023年11月 主日ミサ・平日のミサ予定

主任司祭 ナルチゾ神父

美唄教会 小さな群れ

2023年 11月 No.317

2023年 10月29日発行

・死者のための祈り

日	曜	ミサ		各種勉強会	会議・その他事項
		主日・祭日	時間		
1	水	諸聖人			
2	木	死者の日			
3	金		午前 10:30	ミサ後聖書に親しむ	
5	日	年間第31主日	午前 11:00		
10	金		午前 10:30	ミサ後聖書に親しむ	
12	日	年間第32主日	午前 11:00		運営委員会
15	水		午後 6:00	ロザリオの祈り	今年度最終回
17	金		午前 10:30	ミサ後聖書に親しむ	
19	日	年間第33主日	午前 11:00		貧しい人のための世界祈願日
24	金		午前 10:30	ミサ後聖書に親しむ	
26	日	年間第30主日	午前 11:00		世界青年の日

《 平日のミサ 》 **金曜日のみ 午前 10:30** 3.10.17.24日です

《 聖書を親しむ 》 平日のミサ後、旧約聖書に親しんでみませんか。

霊名の祝日（敬省略）	清掃当番	花当番
17日 エリザベト 加賀 秀子・菅野 瞳・船野 美津子	第2週 小川(ま)・板垣 第4週 東	大 城
22日 セシリア 中村 信子		

【お知らせ】

◎12月3日待降節第一 黙総会ミサ 9:30~12:30頃迄の予定

◎11月は、死者の月 死者の為にミサを依頼しましょう。

【幼稚園】

◎ 1日（水）新年度入学願書配布

◎14日（火）七五三のお祝い 聖堂にて

◎28日（火）お誕生日会 聖堂にて

新しい「ミサ式次第」について

8月に紹介しましたサンパウロから発行されている「キリストと私たちのミサ」の中から前書きの2つを紹介させていただきます。

前回の紹介でこの書籍を購入された方がいるかもしれませんが、お許し下さい。

大城繁子

③ 会衆の共同の姿勢

ミサの間、会衆は「立つ」「座る」などの姿勢で気づかれます。

「立つ」ことは、注意を呼び覚まし、感謝し、神の招きに応じる心、復活した者の状態、神に祈る姿勢を表します。

「座る」という姿勢は、主のもとに座り、そのみことばに耳を傾け続けたベタニアのマリアのように、静かに注意深く神のみことばを聞きながら、みことばを黙想し、その中に奥深く分け入っていくことを助けます。

このように、いろいろな姿勢をとることによって、わたしたちはことばだけでなく、わたしたちのすべてを通じて、神への礼拝、賛美、感謝を表し、神と関係を深めるのです。

会衆の共同の姿勢はまたミサのいけにえが進んでいくに従って、皆が一つになって共同体的、行動的に参加することを助けてくれます。

「ミサ」の祭儀は本性上「共同体的」性格を持っているので、司祭と信者（会衆）との間に交わされる対話や応唱などは大きな力を持っています。

すなわち、それらは共同の祭儀の外的なしるしであるだけでなく、司祭と会衆との交わりを促し、つくり上げるのです。

④ 沈黙

聖なる沈黙も祭儀の一部として、守るべきときに守らなければなりません。

沈黙の意味は、それぞれの祭儀のどこで行われるかによります。



ゆるしを求める祈りのとき、および祈願への招きの後には、各人は自己に心を向けます。聖書朗読または説教後には、聞いたことを短く黙想し、聖体拝領後は、心の中で神に感謝し、神を賛美して祈ります。

（『ローマ・ミサ典礼書の総則』 45 参照）

と説明していただき、ミサの祭儀は私たち信者一人ひとりにとってもキリスト教全体の中心です。私たちたちは意識し、行動し、充実した参加を促されています。